

令和 4年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		シニアクラブ活動助成事業	担当課	健幸長寿課
総合計画	政策	ひと	計画期間	昭和38年度～
	施策	高齢者福祉の充実	種別	法定＋任意
	基本事業（取組）	生きがいつくりの機会と社会参加の促進	市民協働	補助事業
予算科目コード	01-030103-02 補助	根拠法令・条例等	老人福祉法、老人クラブ活動等事業実施要綱、老人クラブ等事業運営要綱、守谷市シニアクラブ助成事業補助金交付要綱	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） 市では、市連合会及び単位シニアクラブへの補助金支給を行うとともに、スポーツ大会、文化交流会、研修会、その他生きがい事業や健康づくり事業などの企画及び実施を支援する。
昭和38年施行の老人福祉法に基づき、老人福祉を増進するための事業を行うものとして、老人クラブ（現在の守谷市では「シニアクラブ」）の支援を開始。シニアクラブは地域を基盤とする高齢者の自主的な組織であり、国の老人クラブ活動等事業実施要綱に基づき、市は単位シニアクラブ、市シニアクラブ連合会（市連合会）及び茨城県老人クラブ連合会（県連合会）と連携を図るとともにシニアクラブ等に対する支援に努め、必要に応じて助言、指導を行う。	
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
市連合会及び単位シニアクラブの活動をより一層活性化し、高齢者の生きがいや健康づくりを推進する。	
（参考）基本事業の目指す姿	
仕事や趣味、スポーツ等を通じて生きがいを持ち、地域活動等に参加する高齢者を増やす。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
①シニアクラブ会員数が増加しない。 ②新規シニアクラブが発足されない。	5月 元気わくわくスポーツ大会【市主催】 9月 茨城県老人クラブ大会【県主催】 10月 茨城県ねりんスポーツ大会【県社協主催】 10月 シニアスポーツ大会【市連合会主催】 1月 詐欺被害防止対策研修会【市連合会主催】 2月 視察研修会【市連合会主催】 3月 文化交流会（健康麻雀大会）【市連合会主催】 随時 役員会，単位シニアクラブ会長会議 他課主催の各種研修会 茨城県老人クラブ連合会主催の各種会議 各単位シニアクラブにおける会員増強活動
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
①会員数を増やすために各種事業終了後，アンケートを実施し，ニーズに合った事業を展開する。 ②新クラブ発足に対する助言・指導及び啓発活動 その他として， ・市主催事業の企画・開催（元気わくわくスポーツ大会，シニアスポーツ大会） ・市連合会主催事業の企画・開催・援助（視察研修会，詐欺被害防止対策研修会） ・市連合会のクラブから企画された事業に対する助言・援助（文化交流会）	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☐ 維持 ☐ 削減	

R03年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R04年度の振り返り）	
R03年度の評価（課題）	R04年度の取組（評価、課題への対応）
新型コロナウイルス感染症拡大の影響による事業中止はあったが、シニアスポーツ大会は感染対策に留意して実施した。また、市連合会会報誌の作成委員会を立ち上げ、創刊号を発行し、単位クラブの活動再開のきっかけづくりを行った。 ・会議開催（全体2回、役員会3回） ・市連合会会報誌創刊号発行（2,000部） ・シニアスポーツ大会（参加者200名）	昨年に続き、感染対策を考慮しながら元気わくわくスポーツ大会を実施したほか、文化交流会、視察研修会を3年ぶりに再開することができた。時間の短縮や参加人数の制限など感染状況に配慮しながら事業を実施し、コロナ禍以前の活動状況に戻すことができた。

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（R02）	H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	目標値（R08）
シニアクラブ会員数（人）	983.00	956.00	987.00	983.00	1,060.00	1,056.00	1,150.00
スポーツ大会参加者数（人）	0.00	593.00	600.00	0.00	220.00	655.00	700.00
成果の動向（→その理由）							
■ 向上 □ 横ばい □ 低下	春の元気わくわくスポーツ大会が再開出来たこと、また、シニアスポーツ大会を人数制限せずに開催したことにより参加者数が増大している。						
今後の事業の方向性（→その理由）							
■ 拡大 □ 縮小 □ 維持	□ 改善・効率化 □ 統合 □ 廃止・終了	情報交換や運営に対する相談に応じる等により市との関係を密にし、単位クラブの活動充実を図りながら、会員数の増加及び高齢者の社会参加と生きがいをづくりを推進する。					

コストの推移						
項目		R02年度決算	R03年度決算	R04年度決算	R05年度予算	R06年度見込
事業費	計	1,800	2,357	2,303	3,003	3,003
	国・県支出金	277	474	282	737	737
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	1,523	1,883	2,021	2,266	2,266
正職員人工数（時間数）		343.00	464.00	669.00	0.00	0.00
正職員人件費		1,388	1,795	2,580	0	0
トータルコスト		3,188	4,152	4,883	3,003	3,003

令和 4年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		高年齢者就業機会確保事業	担当課	健幸長寿課
総合計画	政策	ひと	計画期間	平成16年度～
	施策	高齢者福祉の充実	種別	法定事務
	基本事業（取組）	生きがいつくりの機会と社会参加の促進	市民協働	補助事業
予算科目コード		01-030103-08 補助	根拠法令・条例等	高年齢者等の雇用の安定等に関する法律 守谷市高年齢者就業機会確保事業費等補助金交付要綱

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
高年齢者等の雇用の安定等に関する法律において、「国や地方公共団体は、実情に応じて必要な援助、雇用の機会や就業の機会の確保等を図るために必要な施策を推進するように努めなければならない。」と定められている。	シルバー人材センターの事業運営に要する一部費用を補助金として交付する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
シルバー人材センターは、60歳以上の高齢者の労働能力や技能を活用し、地域社会に密着した短期的な就業の機会を提供している。シルバー人材センター事業の円滑な推進により、高齢者の健康で生きがいのある生活の実現と、地域社会への参加を図る。また、介護保険総合事業への参入を予定し、その体制づくりを進め更なる就業機会の確保に努める。	
（参考）基本事業の目指す姿	
仕事や趣味、スポーツ等の生きがいをもつ高齢者を増やす。地域活動などに参加する高齢者を増やす。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
シルバー人材センターの健全な運営と会員の就業機会確保のために、シルバー人材センターの就業先拡大やサービス拡充が課題となっている。 会員の高齢化により顧客の注文を受けられない状況とならないために会員を安定して確保することが課題となっている。	市は、随時、事務局との定期的な意見交換の場を設け、シルバー人材センターの事業状況把握と、運営への助言指導に努めていく。
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
シルバー人材センターのPRに努め、事業利用の促進を図る。 会員獲得のための入会相談会の実施及び未就業会員に対する公平で適正な就業の確保を図る。 就業会員に対する業務中の作業手順をはじめとする安全ルール徹底、法令順守及びコミュニケーションの向上を図る。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☐ 維持 ☐ 削減	

R03年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R04年度の振り返り）	
R03年度の評価（課題）	R04年度の取組（評価、課題への対応）
高齢者就労機会の確保のためシルバー人材センターへの支援を継続していく。就業時の安全対策については、年度内の落下事故ゼロなど一定の成果が認められる。しかし、登録者の高齢化が進む中、より一層の安全管理が求められる。	引き続き、高齢者就労機会の確保のためシルバー人材センターへの支援を行った。新規加入会員数が伸び悩むなか、就業先の開拓と会員への安全就労管理が求められる。

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（R02）	H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	目標値（R08）
就業延人数（人）	42,747.00	42,915.00	47,928.00	42,747.00	40,989.00	36,454.00	42,000.00
就業実人数（人）	332.00	340.00	340.00	332.00	359.00	343.00	360.00
成果の動向（→その理由）							
☐ 向上 ☐ 横ばい ☒ 低下	定年年齢の引き上げや継続雇用制度の導入等、高齢者雇用が促進されるなかで、新規会員確保が難しい状況にあるため、就業延人数・就業実人数ともに減少している。						
今後の事業の方向性（→その理由）							
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持	☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	継続的な支援をすることにより、健全で安定的なシルバー人材センターの運営維持を図り、高齢者の生きがい及び社会参加の場として事業を継続する。					

コストの推移						
項目		R02年度決算	R03年度決算	R04年度決算	R05年度予算	R06年度見込
事業費	計	3,100	3,100	3,100	3,100	3,100
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	3,100	3,100	3,100	3,100	3,100
正職員人工数（時間数）		64.00	108.00	24.00	0.00	0.00
正職員人件費		259	418	93	0	0
トータルコスト		3,359	3,518	3,193	3,100	3,100

令和 4年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		サロン活動支援事業	担当課	健幸長寿課
総合計画	政策	ひと	計画期間	平成12年度～
	施策	高齢者福祉の充実	種別	任意の事務
	基本事業（取組）	生きがいつくりの機会と社会参加の促進	市民協働	事業協力
予算科目コード		01-030103-13 単独	根拠法令・条例等	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
平成12年度から高齢者の孤立や閉じこもりを防ぐことを目的に、自宅から歩いていける場所に介護予防施策の拠点としてサロンを開設した。	地区公民館・集会所・自治会館等を利用して、健康づくりのための体操・音楽・趣味活動・茶話会等を行い、地域社会での高齢者同士のつながりを深める。 なお、サロンは、参加者を兼ねたボランティアにより自主運営で実施されている。市では、サロン活動に必要な消耗品や備品の提供、活動の場の調整等を行っている。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	サロン数：29カ所 開 催 数：毎週1回～月2回程度 開催時間：午前10時～午後3時（各サロンによって異なる） 費 用：無料（但し、飲食代や材料費等は自己負担）
（参考）基本事業の目指す姿	
高齢者が仕事や趣味、スポーツ等の生きがいを持ち、地域活動等に参加する機会を増やす。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
①小規模サロンにおける参加者の固定化，減少 ②運営ボランティアの高齢化，後継者の不在 ③視察研修の費用対効果	7月 運営ボランティア会議 ・今後の運営方針について 時期未定 ボランティア向け研修 随時 ・予定表や掲示物等の作成支援 ・消耗品やお茶等の購入及び配布 ・必要な備品の購入及び貸出 ・まちづくり協議会等との連携
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
①②開設から長期間経過しているサロンも多く、様々な問題が発生している。まちづくり協議会等に協力を求め、今後の事業運営方針を定める。 ③レクリエーションの要素の強いものではなく、上記の諸課題の解決に繋がる研修として見直しを行う（運営ボランティア向けに、先進事例やサロン参加者に周知すべき情報を提供する場とする）。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☐ 維持 ☐ 削減	

R03年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R04年度の振り返り）	
R03年度の評価（課題）	R04年度の実績（評価、課題への対応）
新型コロナウイルス感染症拡大の影響で一時活動休止を余儀なくされたが、出前講座やDKエルダー（音楽や映像を使ったコンテンツで介護予防を行う機器）等の利用促進により、活動再開のきっかけを提供した。	サロン活動の再開に伴い、必要な備品や消耗品の提供を必要に応じて実施した。また、引き続き出前講座の周知を図り、数多くのサロンを訪問した。多くのサロンは、コロナ禍以前の活動に戻りつつあるが、参加人数は減少してしまった。また、4箇所のサロンが活動休止期間から再開することなく休止となった。

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（R02）	H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	目標値（R08）
参加人数（人）	830.00	1,255.00	1,300.00	830.00	850.00	672.00	1,000.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）							
☐ 向上 ☐ 横ばい ☒ 低下	新型コロナウイルス感染症による活動休止期間の影響により、解散を余儀なくされたサロンが複数あり、参加人数の減少となった。						
今後の事業の方向性（→その理由）							
☒ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 維持	☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	コロナ過で減少した参加人数を回復するため、安心して参加できる環境づくりや活動の活性化に向けた支援を継続する。また、新たなサロンの開設に向けて地域への情報提供を実施する。					

コストの推移						
項目		R02年度決算	R03年度決算	R04年度決算	R05年度予算	R06年度見込
事業費	計	410	477	547	708	708
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	410	477	547	708	708
正職員人工数（時間数）		488.00	210.00	80.00	0.00	0.00
正職員人件費		1,975	812	308	0	0
トータルコスト		2,385	1,289	855	708	708